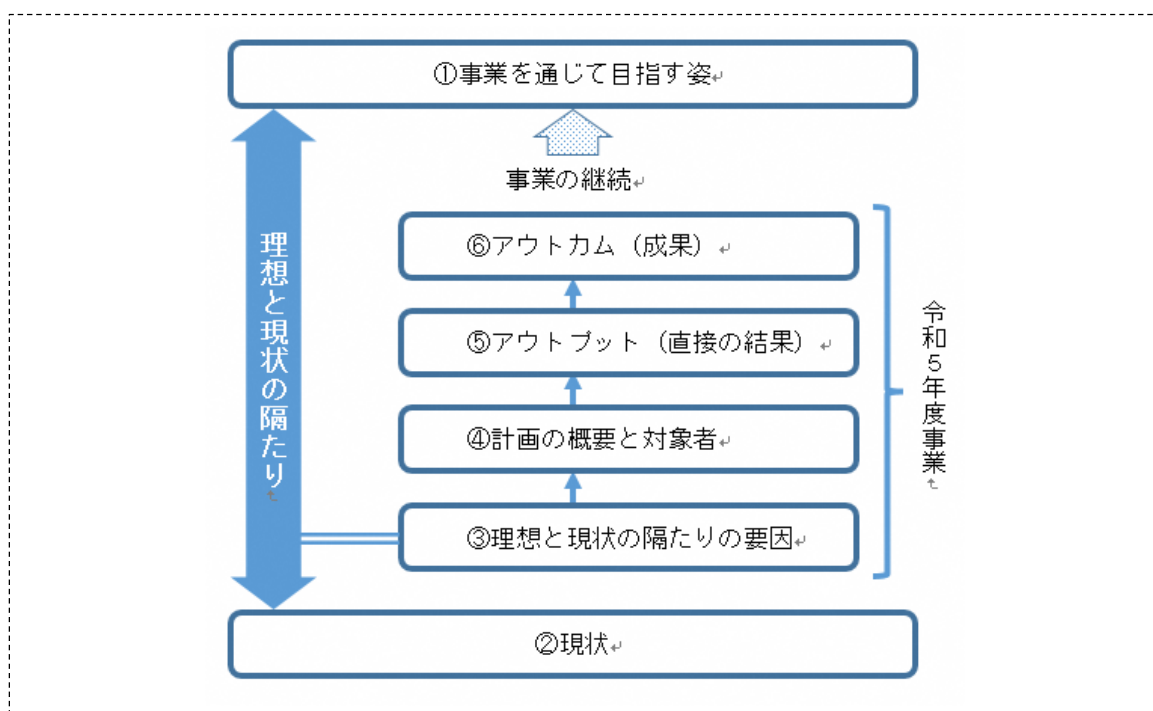


事業計画書

事業名	平成 30 年西日本豪雨災害の真備町被災者による「語り部」活動支援事業
団体名	語り部ネットワークまび

記入する項目の関係図

次の図は、この事業計画書の各項目の関係を示したものです。以下、この図を意識しながら、各項目に記入する内容を検討してください。



1 目指す姿

事業を通じて目指す姿や、事業を実施する目的はどのようなものですか。「地域や社会、人のどんな問題を解決し、どのような状態にしたいのか」を具体的に記入してください。

平成 30 年西日本豪雨災害の経験を教訓として、防災力を高めた安全で安心な社会をつくることを目指す。被災 5 年目である令和 5 年度末を目途に、今回の真備の災害の記憶を後世に語り継がなければならないという思いを持つ様々な個人や団体がゆるやかに繋がり、倉敷市とその周辺地区で、被災と復興の体験を語り合い学び合う会が持続的に開催され、その記録が災害デジタルアーカイブの一部として残るようにしたい。

また、真備地区外から、平成 30 年西日本豪雨災害の代表的な被災地として、被災体験やその後の復興まちづくりのプロセスに関心を寄せられている方々に対して、そのグループ・個人の多様なニーズに応じて、適切に対応できる「人=語り部」を、幅広いネットワークの中から選んで、結びつけたい。

2 現状

上記1の目指す姿と比べて、現在はどのような状況にありますか。

被災まる五年を迎える西日本豪雨の被災地真備では、自宅や公共施設の再建など目に見えるハード面の復興が一段落し、年月の経過とともに辛い被災の体験も徐々に忘れ去られようとしている。

一方では毎年繰り返される全国各地の豪雨災害を背景に、真備の災害伝承や復興防災のまちづくりの取り組みも含めた状況が注目され、「真備での災害の体験を聴きたい」といったさまざまなリクエストが私達のもとに入ってくるようになった

被災まる4年の22年7月には、1000名を超える来場者で盛り上がった「水害伝承の展示会」(第一回)に団体として参加し、その期間中に2014年広島県の土砂災害被災地から災害伝承と町の復興に取り組む「復興交流館モンドラゴン」の事務局長をお招きし「語り部研修会」を計画どおり開催した。また、23年2月には、「語り部文化講座」と岡田地区を舞台に語り部とまち歩きをしながら「この場所・あの時」の災害の記憶を明治26年と平成30年のふたつの大水害について探訪していく企画を、まび創成の会と共催で準備している。

以上のように当初の私達の目的はこの2年間で徐々に実現されつつあるが、活動が進むに連れて新しい課題も見えてきた。

3 目指す姿と現状の隔たりの要因

上記1と2の隔たりを生み出している主な原因はどのようなものと考えますか。

前年度の計画書で、私たちの取り組みがまだまだ地域の中ではごく一部の方々に限定されており、その横方向への広がりにおいても、縦方向への深まりにおいても、不十分さを否めなかったと書いている。この一年で進んだところもあるが、新しく見えてきた課題もあり、これを整理しておきたい。

●横への広がり不足

昨年度は、アクティブシニア世代に活動の年齢層が偏っており、年齢の多様性を意識した若い世代へのアプローチを課題としてあげた。22年には、若い世代の「語り部」の方を希望される団体グループには、高校三年のときに被災し友人とふたりで高校時代から「語り部」活動をはじめ、建築と防災を同時に学べる大学に進学し、防災士の資格も取って学生防災士のサークルでも活動されている大学四年生の方を紹介している。今後は、被災当時小中学生だった更に若い世代にもつながりを広げていきたい。

ここで、このような世代的な多様性とは別の「横への広がり」の課題が見えてきた。地区ごとの被災状況の差異があり避難の状況、被災後の復興のプロセスも違っていた。まちづくり推進協議会のある7地区で、特定地区に偏らない語り部活動の「横」への広がりを意識的に求めていかなければならない。

●縦への深まり不足

今回の水害の犠牲者のそばに居られたご家族の方、ご近所の方々、支援されてきた専門職の方々の「助けられなかった」という痛恨の想い、二度と犠牲者を出さないための貴重な証言は、その多くがまだまだ沈黙の水面下に沈んだままである。しかし、22年度に新しく語り部の活動にご参加いただいた有井地区の方からは、真夜中寝入っていた時に堤防が決壊し濁流が住宅地に押し寄せ、自分は息子に起こされ九死に一生を得たが住宅地の端にあった自分の家と堤防との間で五人の方が亡くなられたことを住宅地図を示しながら大学生とのオンライン交流会の中で証言していただいた。先の項目の「横への広がり」が「縦への深まり」につながる結果となった。

「深まり」ということでは、この一年の活動の中で新しく生まれてきた課題がある。災害の伝承というのは災害の恐ろしさを未来に伝承し、二度と犠牲を繰り返さないつまり、「マイナス」を繰り返さないための伝承であると同時に、過酷な災害の中からしなやかに立ち直ってきた自分たちの復興での頑張り、つまり「プラス」を繰り返して行くための伝承、この両面が大切であるとされている。(参照 令和3年度 防災・伝承セミナー in 宮城) 語り部の活動の中でもこの被災体験の両面を意識した「語り」の奥行き・深まりを考えていく必要を感じている。

以上のように引き続き、横への広がりや縦への深まりの不足という課題を進化させ、「語り部」活動とその支援を、持続可能な活動形態を視野に入れつつコツコツと続けていくなかで克服してゆきたい。

4 計画の概要と対象者（令和5年度）

上記3で挙げた要因を取り除くため、どのような人を対象に、どのような活動を実施しますか。150字以内で簡潔にまとめてください（計画の詳細は下記7に記入してください）。

平成30年西日本豪雨災害の真備町住民による語り部活動を支援するために、
多世代多様な地域住民の参加する「オールまび語り部の会」の定期開催
災害伝承先進地に学ぶ「語り部研修会」の実施
災害伝承のための活動成果のデジタルアーカイブ化と年次記録冊子の電子出版
真備への復興防災スタディツアー等に対する「語り部」の紹介

アウトプット（直接の結果）とアウトカム（成果）について

アウトプットとは 事業の直接の結果であり、事業を通じて、どれだけの人に対し、どのようなサービスが提供されたかをいいます。

アウトカムとは 事業の成果であり、アウトプットが地域や社会、人にもたらす変化や効果をいいます。事業はこのアウトカムを生み出せるように計画します。

アウトプットとアウトカムの関係
事業を実施すると、まず、○○○というアウトプットが生じ、次にその成果として、というアウトカムが生じる関係にあります。

事業実施→アウトプット→アウトカム

アウトプットとアウトカムの例

事業名	活動	アウトプット	アウトカム
学習支援事業	学習会の開催	月4回、各回20名参加	参加者の学習意欲の向上
就労支援事業	冊子作成・配布	1千冊作成、800人に配布	就労に必要な知識の習得
保護者支援事業	居場所の運営	週2回、各回15名参加	育児の負担感の緩和
移動支援事業	高齢者の送迎	週2回、各回5名利用	移動手段の選択肢の増加

5 アウトプット（直接の結果）

令和5年度の事業を通じて、どれだけの人に対し、どのようなサービスを提供しますか。

2023年7月の被災まる五年に合わせた「オールまび語り部2023」を実施、そして、2024年3月に第二回「水害伝承の展示会」に合わせた、災害デジタルアーカイブの先進事例を学び真備での取り組みを共有する「語り部研修会」を実施する。この2つの行事をオンライン併用で、幅広い参加者のもとに実施し、そのアーカイブ動画をYoutubeチャンネルに上げ、遠隔地からも沢山の方々にご視聴いただくとともに、一年間の活動を振り返った年次記録冊子を電子出版して、多くの方々に購読して頂く。
また、真備での災害と復興まちづくりの多様な経験を証言動画として収録整理し、地区外からの講師派遣や交流等の要請に応える。

アウトプットを測る指標と数値目標を記入してください。

(様式第 2 号)

指標	現状の数値	事業実施後の数値目標
Youtube チャンネルの総視聴回数	累計 2514 回 (22/12/6 現在)	累計 5000 回
証言動画収録者の新規人数	22 年度内新規 5 名 累計 18 名	新規 6 名(語り部の会登壇を含む) 累計 24 名
語り部記録冊子の電子出版化	2 年間で紙媒体 140 冊	電子書籍で 追加 300 部 (電子書籍販売数)

事業実施後の数値目標は、どのような方法で測りますか。

Youtube のチャンネル・アナリティクスのサイトで示される視聴回数を確認する。
Youtube のチャンネルで新しく証言動画を公開または限定公開された実人数をカウントする。
過去二年を含む三年分の記録冊子の Amazon での販売部数をカウントする。

6 アウトカム (成果)

上記 5 のアウトプットが、令和 5 年度中に、地域や社会、人にもたらす変化や効果はどのようなものですか。

真備水害の記憶、失うものの多かった辛く過酷な体験も個人個人の中に閉じ込めるのではなく、それを熱心に聴いてくれる他者と出会い、広く地域社会に向けて語り継いで行くことが、その人にもポジティブな見返りをもたらすという好循環が、地域の文化として定着していく入り口を開くことができる。
そのような好循環が、デジタル技術の力も借りながら、豪雨災害でも犠牲者を出さない防災まちづくり、被災してもしなやかに立ち直れる復興まちづくりにも寄与することができる。

7 計画の詳細

(1) 具体的な内容

内容、対象者、実施期間、実施場所、ねらいなど、できるだけ明確に記入してください。

年間二回の子どもにとっては大きな行事である「オールまび語り部の会」と「語り部研修会」の実施時期を 2023 年度から逆転させ、被災まる 5 年の 23 年 7 月に前者を、年度末の 24 年 3 月に後者を実施するように計画している。

年間を通じて真備での災害やそこからの復興についての体験談を聞きたいという地区外からのリクエストが様々な団体から寄せられるようになってきているので、前回、広島の子学生グループ向けに行ったように、登壇するひとりひとりの事前の丁寧なインタビュー録画や写真撮影・スライド制作をコツコツと進めて行く。

多世代多様な地域住民の参加する「オールまび語り部の会」の定期開催

被災丸 5 年にあたる 2023 年 7 月上旬にマービーふれあいセンターの展示室をお借りして実施する。

今回のテーマは「復興の中の出会い・つながり・支え合い」とし、被災直後に支援する・されるという関係の中で出会い、その後もつながりを保ちながら復興の道のりを伴走し支え合って今日に至っている多様なお立場の皆様にご登壇いただきたいと考えている。

災害伝承先進地に学ぶ「語り部研修会」の実施

2024 年 3 月の第二回「水害伝承の展示会」と並行し、災害デジタルアーカイブを整備されておられる災害伝承先進地から担当者をお招きしてお話を聞くと同時に、真備でのデジタル伝承の現在の状況を共有する研修会を開催したい。会場は 展示会の開かれているマービーふれあいセンターの会議室・研修室等を予定している。

真備の水害デジタル伝承の現状としては、岡山大学大学院・松田教授のご指導の下に進めている「この場所」にまつわる短い証言動画を集めて 地図上の QR コードとリンクさせた真備デジタル伝承館のプロジェクトを始め様々な取り組みが行われている。 <https://www.matta-geography.com/about-4>

これら多様な取り組みについての直近の現状を 2023 年 2 月に 語り部ネットワークまびとまび創成の会の共催で行われる予定の「災害伝承の広場」という一連の企画の中で、それぞれの担当者がお互いの現状を発表しあい、一年先の「災害伝承展示会」に向けた連携や計画を話し合う場を持つことにしている。

災害伝承のための活動成果のデジタルアーカイブ化と年次記録冊子の電子出版

2021 年度 22 年度と二度の年次記録冊子の発行実施している。(22 年度は編集 22/3 月末発行) しかしながら、紙媒体で印刷製本を行うと高いコストのわりに部数に限りがあり、予算の関係で 21 年度 40 冊、22 年度 100 冊(予定)の発行にとどまっている。この 2 年分の語り部記録冊子をまず電子書籍として出版し、Amazon の電子書籍の販売ルートに乗せ、つづけて、2023 年度は最初から電子書籍としての出版を計画する。

活動成果のデジタルアーカイブ化について、二つの大きな行事はこれまでどおりライブ配信したものを Youtube の記録動画として、頭出しの目次を整備して残すことを進めていく。さらに、新しく語り部の活動に手を挙げていただいた方々の記憶に残る その場所その場所でのロングインタビューを収録し 個人別のアーカイブ動画で残すこともコツコツと進めて行きたい。

真備への復興防災スタディツアー等に対する「語り部」の紹介

真備水害の語り部へのリクエストとしては、視察とかスタディツアーとして学びに来られる方々を対象とした語りとともに、学生グループがオンラインで語り部からお話を伺い交流したいというリクエスト、そして 講師としてそれぞれの地元での公民館やボランティア団体での研修にお招きいただくというケースがあり、それぞれに丁寧に対応している。

子どもの強みとしては、20 名程度の方々が多様な体験やそれぞれの持ち味を活かした語り部として、これまでご登壇頂いた語り部の会や記憶に残るその場所でのロングインタビューを収録して記録動画として整理しているので、事前に企画担当者にそれらを見ていただいた上で、適切な方を選んでいただけるようにしていることであり、この 방식을さらに内容豊かに充実させていきたい。

(2) スケジュール (準備 ~ 実施 ~ 報告)

4 月	2 月実施の「語り部文化講座」等の動画アーカイブをネット上に公開するとともに、必要に応じテキスト起こしをして年度末の記録冊子発行につなげる。
4 月 ~	過去二年分の語り部年次冊子(紙媒体)の電子書籍出版にトライする。
4 月 ~	引き続き、まび創成の会のデジタル伝承館証言収集に協力し、新しい「語り部」の発掘とともに「この場所あの時」証言の収集をすすめる。
5 ~ 6 月	2024 年 3 月開催の水害伝承の展示会実行委員会に参加

7月	7月のオールまび語り部の会「復興の中での出会い・つながり・支え合い」(仮)について登壇者の調整と準備・PR
8月	7月上旬に「オールまび語り部の会 2023」を実施
9月	この動画アーカイブをネット上で公開するとともにテキスト起こしをして年度末の記録冊子制作につなげる。
11月	今年度の語り部年次冊子の企画を協議・執筆者への依頼開始 年度未実施の「語り部研修会」の企画を進める・登壇者の調整
3月	水害伝承の展示会と同時開催の「語り部研修会」の広報活動開始 次年度の活動計画を協議 第二回水害伝承の展示会と平行して「語り部研修会」の開催 年次記録冊子の電子出版と広報・活動報告作成

(3) 実施体制

上記(1)の計画を実施するにあたり、実際に取り組む団体会員を記入してください。また、人件費を支払う予定の団体会員には、人件費欄に「有」を記入してください。

氏名	事業に有効な資格や経験	人件費
大熊正喜 (代表)	岡山県認知症介護指導者として県の研修事業で講師歴 17 年。 介護施設の管理職の時代から、定年退職後も、地域で「パソコン教室」などを岡山県生涯学習大学連携講座として主催して 8 年。 コロナ禍に際しては、真備の復興の中でつながりを絶やさないために、ICT 技術の普及、地域諸団体の ZOOM 会議やネットでの発信の支援に努めている。 マービーミュージカル in 倉敷の代表として 2023 年 3 月には復興をテーマとしたミュージカル「日の記憶」を倉敷市創作舞台育成事業の一環として上演する。	
大熊明美 (事務局長)	理学療法士として高齢者医療・福祉におよそ 30 年従事、箭田にある居宅介護支援事業所の管理者として勤務していた時に事業所が被災し退職した。地域ボランティア・放課後デイサービスにて活動中である。岡山県認知症介護指導者として県の研修事業で講師歴 11 年、講師として現在も活動を継続中である。 「人間学」「教育学」の学位取得 令和 2 年小学校教員免許取得	
矢吹顕孝 (副代表)	一般社団法人 お互いさま・まびラボの事業として語り部「七夕会」を主催し、2019 年 12 月より語り部活動にも従事している。 参照「川と暮らす」誌は現在続編を制作中。	
森脇 敏 (運営委員)	地域住民の団体「真備・岡田の復興・再生を考える会」を仲間と立ち上げ、郷土史家としての長年の活動をもとに、2019 年 1 月より、過去の災害の歴史や今回の災害の原因について調査研究し、2021 年 3 月の語り部の会では「高梁川と小田川の水害と治水の歴史」についての講演が好評を博し、その後、倉敷ケーブルテレビでもスタジオ収録し放映された。	
山口敦志 (運営委員)	箭田まちづくり推進協議会 前会長 真備図書館を拠点に活動している「真備語りの会まきび」で朗読や読み聞かせの会を主導している。	
峰山洋子 (運営委員)	岡山生涯学習 インストラクター協会顧問 全国万葉協会会員 自らの被災体験とともに、専門の万葉集から「万葉の人々の災禍との向き合い方」について、町外の公民館で話す機会を持っている。	
土屋雅子 (運営委員)	真備図書館を拠点に活動している朗読「まきび・野の花」代表である。ほとんどのメンバーは被災し散り散りになったが、練習会場を確保、活動を再開し 2019 年 12 月には真備保健福祉会館で津波災害の物語「いなむらの火」などの作品の朗読発表会を行ない、2021 年 3 月の語り部の会でも指導されている石飛倫子さんと二人でこの作品を上演していただいた。	

(様式第2号)

10 名を超える場合は，外〇〇名としてください	外（ ）名	

- 8 受益者負担 事業の財源確保のため、可能な限り参加費や受講料などを徴収してください。
- (1) 徴収する (見込み：記録冊子の電子書籍での出版に伴い一冊あたり少額の対価を頂く)
- (2) 徴収しない(理由:_____)

収支予算書

1 収入の部

科目	内訳	金額(円)※2	積算根拠
受益者負担		70,000	年次記録誌電子書籍出版販売 @500×70%×200部
会費からの繰入		0	
その他		50,000	寄付
市補助金		191,000	
収入合計		311,000	(支出合計と一致)

2 支出の部

科目	内訳	金額(円)※2	積算根拠
人件費(会員)※1		0	
交通費(会員)※1		0	
人件費(アルバイト等)		0	
謝金(講師等)		57,000	7月語り部の会 登壇者謝礼@3000円×9名 3月研修会 30000円
旅費交通費(講師等)		77,000	7月語り部の会 東京 32000円×1名 県内 3000円×1名 3月研修会 長野県から前泊 31760円+10000円
消耗品費		6,000	インクカートリッジ Canon プリンタ用一式 5580円
印刷製本費		20,000	チラシ @20円×500枚×行事2回
通信運搬費		5,000	レターパック @520×2回 定形外郵便 @120円×15人×2回
保険料		0	
使用料・賃借料		61,000	7月語り部の会 マービーふれあいセンター展示室 土日2日間@12375円×2 3月研修会 会議室研修室 土日2日間 @2475円×2日×2室 オンライン機材レンタル料 @13000円×2回
外注費・委託費		70,000	電子書籍表紙等デザイン料 50000円 20年度年次冊子データ化手数料 10000円 電子出版技術アドバイス料 10000円
対象経費計		296,000	
食糧費		15,000	語り部の会、研修会飲み物代 @150円×50人×2回
人件費		0	
その他		0	
対象外経費計		150,00	
支出合計		311,000	(収入合計と一致)

※1：会員に支払う人件費交通費は、協働事業部門のみ計上でき、その合算額は対象経費計の1割を上限とする。

※2：金額欄は切り上げて千円単位で記入する。

組織運営体制

団体名	語り部ネットワークまび
ふりがな	かたりべねっとわーくまび
法人格(○をつけてください)	任意団体
CANPAN 登録の有無	有

CANPAN: 日本財団及び特定非営利法人 CANPAN センターが運営する, 市民・NPO・企業などの活動を支援する WEB サイト
以下の項目は, CANPAN に登録する情報と同等の内容です。登録済みの場合は, そちらを参照すると便利です。

新規チャレンジコースに申し込む団体は, **情報のある項目のみ**記入してください。

1 組織体制

任意団体活動開始年月	2020 年 12 月 (西暦)
法人格取得年月	なし
事務所 所在地	
代表者	職・氏名 代表 大熊正喜
	電話番号
ウェブサイト URL	https://www.facebook.com/kataribemabi
活動地域	倉敷市真備町とその周辺
役員数・職員数計	7 名 (役員 7 名, 職員 0 名)
設立年月	2020 年 12 月
活動分野 (該当に○をする) (複数回答可)	子ども・青少年・障がい者・高齢者・在日外国人・留学生・福祉・保健・医療・教育・学習支援・地域・まちづくり・文化・芸術の振興・スポーツの振興・環境・エコロジー・災害救援・地域安全・人権・平和・国際協力・国際交流・男女共同参画・IT の推進・科学技術の振興・経済活動の活性化・起業支援・就労支援・労働問題・消費者保護・市民活動団体の支援・観光・農山漁村・中山間・助成活動・食・産業・漁業・林業・行政監視・情報公開・行政への政策提言・学術研究・その他 ()
活動目的 (規約等に定めるもの)	平成 30 年西日本豪雨災害の経験を教訓として、防災力を高めた安全で安心な社会をつくることを目指す。被災 5 年目である令和 5 年度末を目途に、今回の真備の災害の記憶を後世に語り継がなければならないという思いを持つ様々な個人や団体がゆるやかに繋がり、倉敷市とその周辺地区で、被災と復興の体験を語り合い学び合う会が持続的に開催され、その記録が災害デジタルアーカイブの一部として残るようにしたい。 また、真備地区外から、平成 30 年西日本豪雨災害の代表的な被災地として、被災体験やその後の復興まちづくりのプロセスに関心を寄せられている方々に対して、そのグループ・個人の多様なニーズに応じて、適切に対応できる「人=語り部」を、幅広いネットワークの中から選んで、結びつけたい。
設立以来の主な活動実績	平成 30 年西日本豪雨の被災地真備地区で、この災害をくぐり抜け復興に向けて歩んでいる私達の体験を、次の世代に語り継ぐ活動が必要であるという声はあちらこちらから出ており、実際に、様々な場所で一部の先進的な団体・個人が被災体験を語る機会を持っている。 私達は、このような動きを緩やかにつなぎ、それぞれが取り組む災害伝承の活動

	を「オールまび」で、より組織的・継続的にこなう必要を感じ、2020年12月にそのネットワークの核になるべき者たちが発起人となり「語り部ネットワークまび」を設立した。 2021年3月に第一回「オールまび語り部の会」を開催し、その後、年間計画で、毎年夏には「語り部研修」年度末に「オールまび語り部の会」を定期的で開催して行くように計画し実施してきた。 2022年3月にはコロナ禍でオンラインで第二回「オールまび語り部の会」を開催し、7月の被災4年目には「水害伝承の展示会」の実行委員会に参加し展示会と並行して「語り部研修会」を開催した。
現在特に力を入れていること	コロナ禍で多くの人と一緒に集まらないので、ZOOMでつながり、録画機能を使ってアーカイブ動画をYoutube上に残して、その場に参加できなかった多くの方にも見ていただいている。

2 団体概要と財政状況

団体の活動・業務 (事業活動の概要)	平成30年西日本豪雨の真備での災害伝承を目的とした様々なスタイルによる語り部の活動を継続的に実施できるような緩やかなネットワークをつくり、語り部研修や語り部の会を定期的で開催してそれをアーカイブ動画に残し年次記録冊子を発行している。
今後の活動の方向性	当初の私達のネットワークが、年齢的には中高年層に偏りがあるためもう少し若い層、特に被災時に小・中・高校生だった真備の未来を担う若者たちに、自分が体験した災害とそこからの復興の経験を多くの多世代の人達に伝えられるように、ネットワークを広げていきたい。 また主に災害伝承を7月の展示会や災害伝承のための屋外サイン設置など、ハード面から進めようとしている「まび創成の会」の活動について、「語り部」というソフト面から、連携することを計画している。 この会が事務局となり実行委員会を組織して定期開催する「展示会」に実行委員として参画し、展示会と並行してと、災害伝承の先進地から講師をお招きし語り部研修会を開いたり、その場所その場所にまつわる語り部とともに真備地区内を巡るスタディツアーを定期開催することを計画している。
最新決算総額 (該当に○をする)	100万円未満・100～500万円未満・500～1,000万円未満・1,000～5,000万円未満・5,000～1億円未満・1～5億円未満・5億円以上
定期刊行物	語り部ネットワークまび年次記録冊子 年度末発行

3 活動概要と協働実績

助成金・補助金等の支援を受けた実績	マルセンスポーツ文化振興財団 2021年度スポーツ文化活動助成
他NPO・市民活動団体との協働実績	一般社団法人 お互いさま・まびラボ 語り部「七夕会」 箭田まちづくり推進協議会 まび創成の会 朗読「まきび・野の花」 真備語りの会まきび 学舎まび マービーミュージカル in 倉敷
企業・団体との協働実績	
行政との協働実績(委託事業など)	